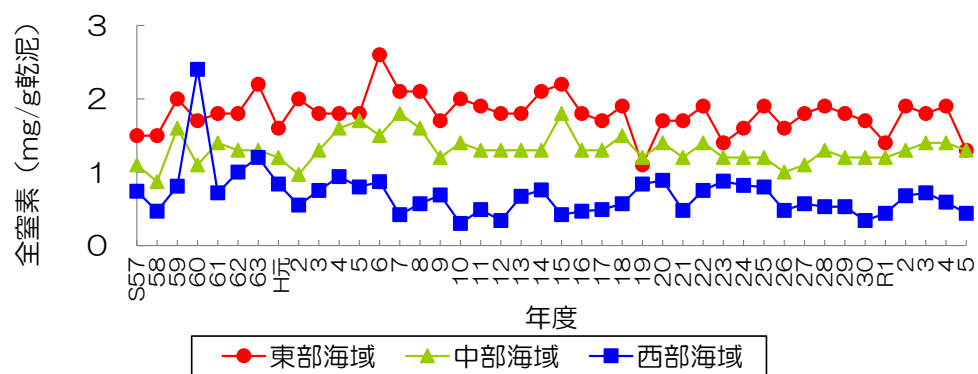
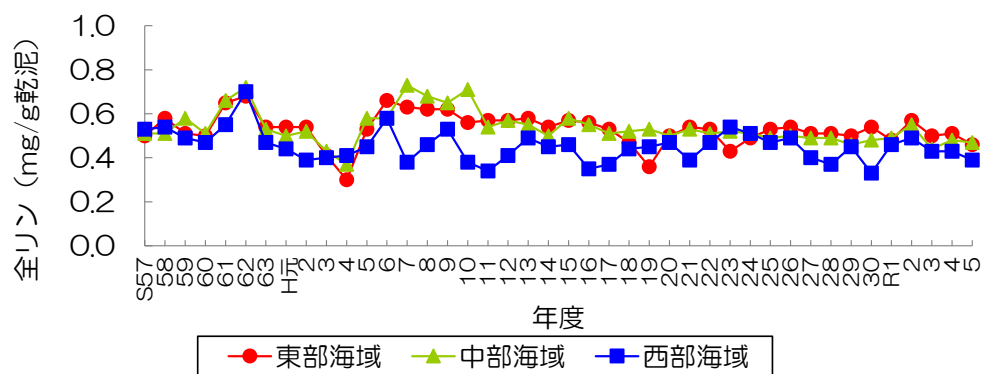




福岡市水質測定結果報告書（福岡市環境局）、
令和5年度博多湾水底質調査委託報告書(福岡市環境局)をもとに作成

図 72 底質の全窒素の経年変化



福岡市水質測定結果報告書（福岡市環境局）、
令和5年度博多湾水底質調査委託報告書(福岡市環境局)をもとに作成

図 73 底質の全リンの経年変化

(5) 貧酸素水塊の発生状況

① 底泥直上の溶存酸素量の季節変化と分布

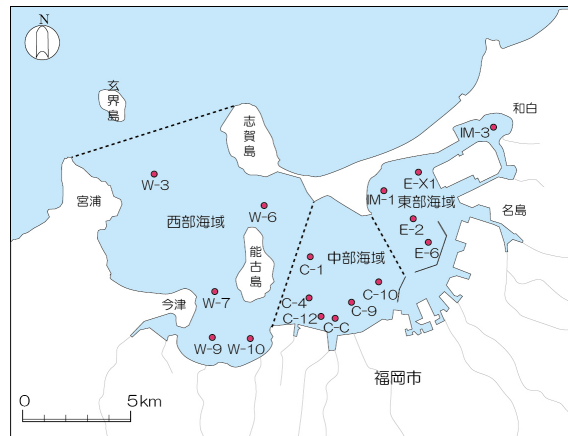
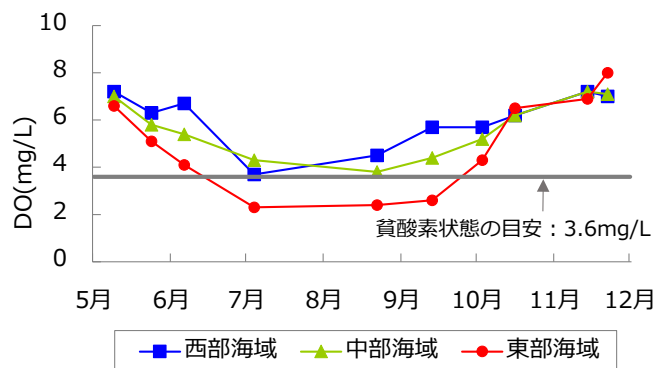


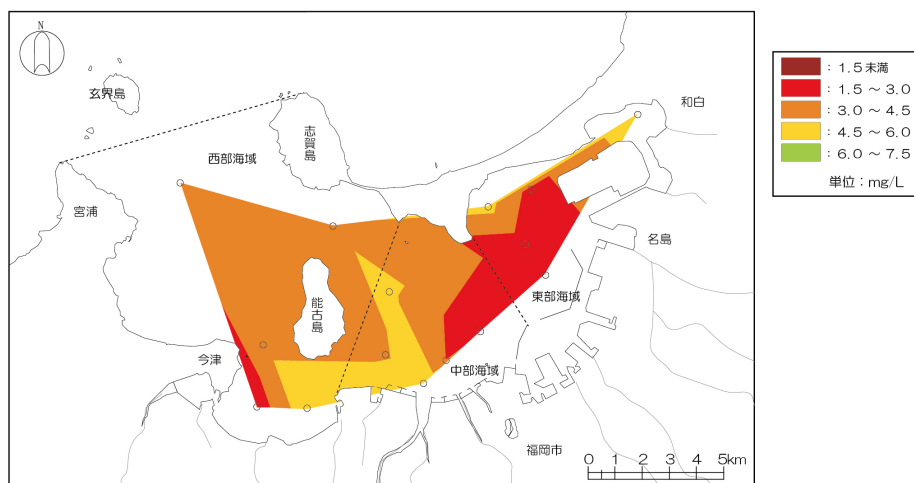
図 74 底泥直上（海底上 0.1m）の溶存酸素量（DO）の調査地点



注) 図中のグラフは各調査日で測定された各地点の値を海域毎に平均した値である。

令和 5 年度博多湾環境保全計画に係るモニタリング業務委託報告書（福岡市環境局）、
令和 5 年度博多湾水底質調査委託報告書（福岡市環境局）をもとに作成

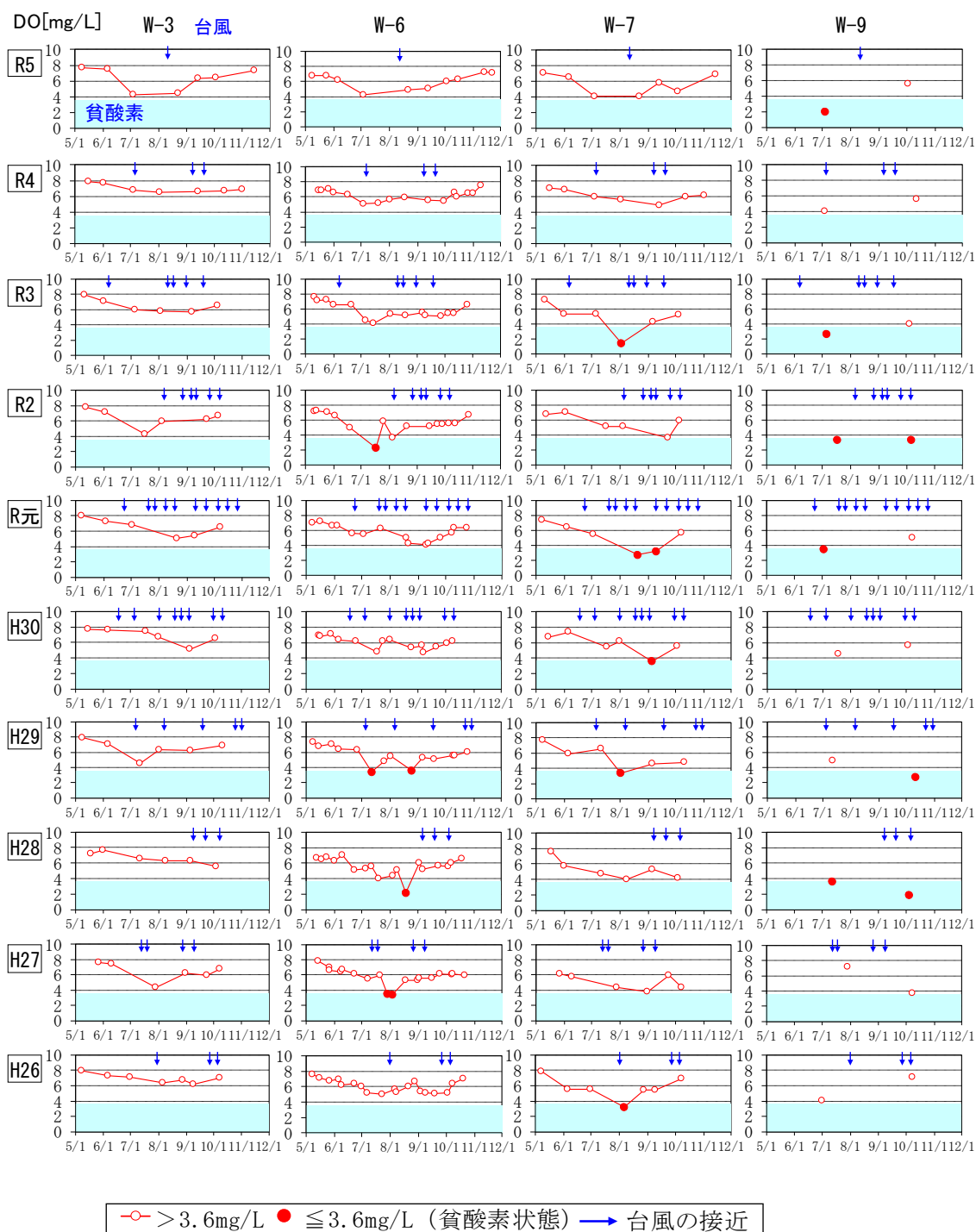
図 75 底泥直上（海底上 0.1m）の溶存酸素量の季節変化（令和 5 年度）



注) 溶存酸素量の分布はそれぞれの地点において最も低下した日（6月下旬～9月）の値を用いて、作成した。
令和 5 年度博多湾環境保全計画に係るモニタリング業務委託報告書（福岡市環境局）、
令和 5 年度博多湾水底質調査委託報告書（福岡市環境局）をもとに作成

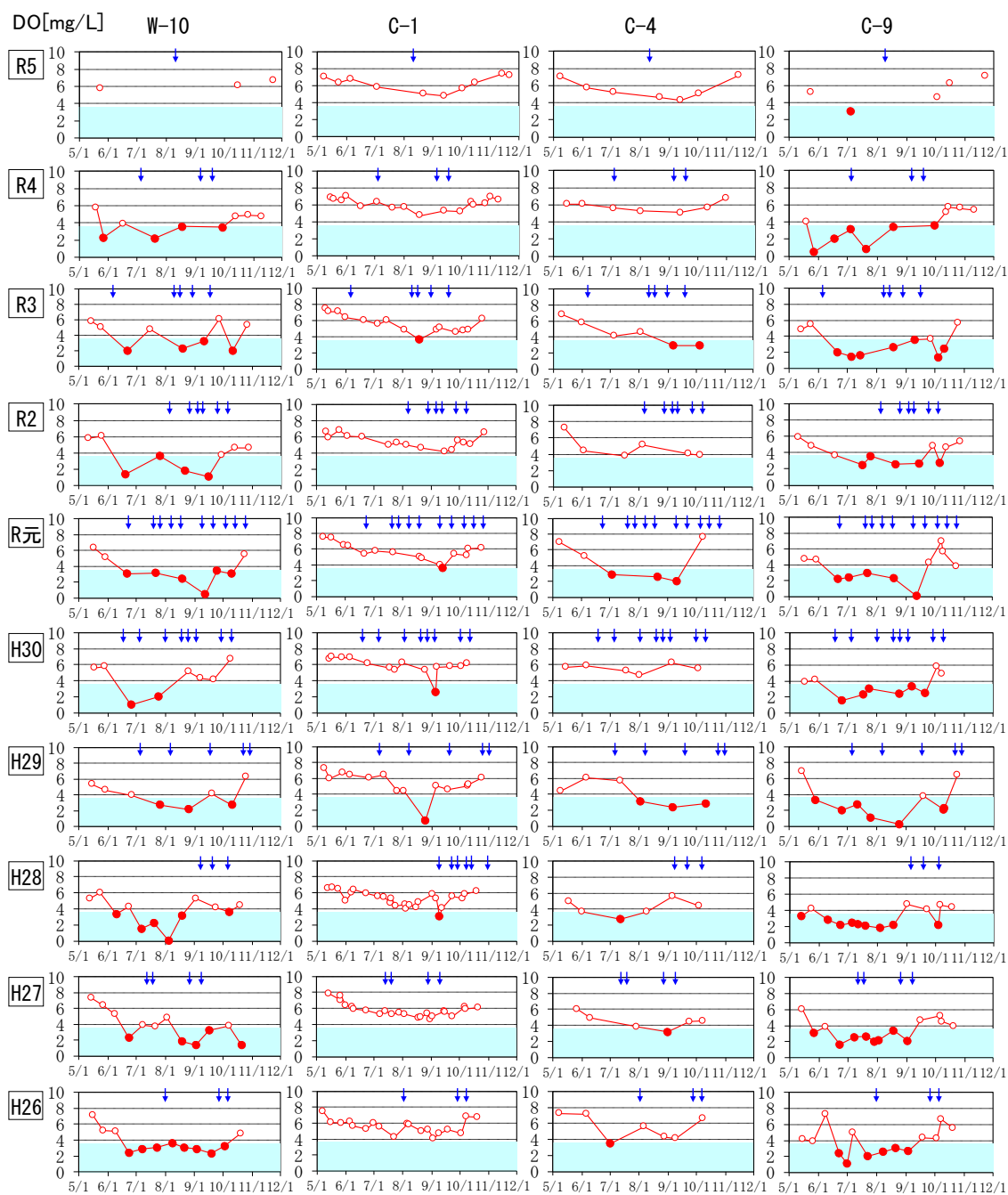
図 76 底泥直上（海底上 0.1m）の溶存酸素量の分布（令和 5 年度の年間最低値）

② 経年変化



福岡市環境局、福岡市港湾空港局のデータをもとに作成

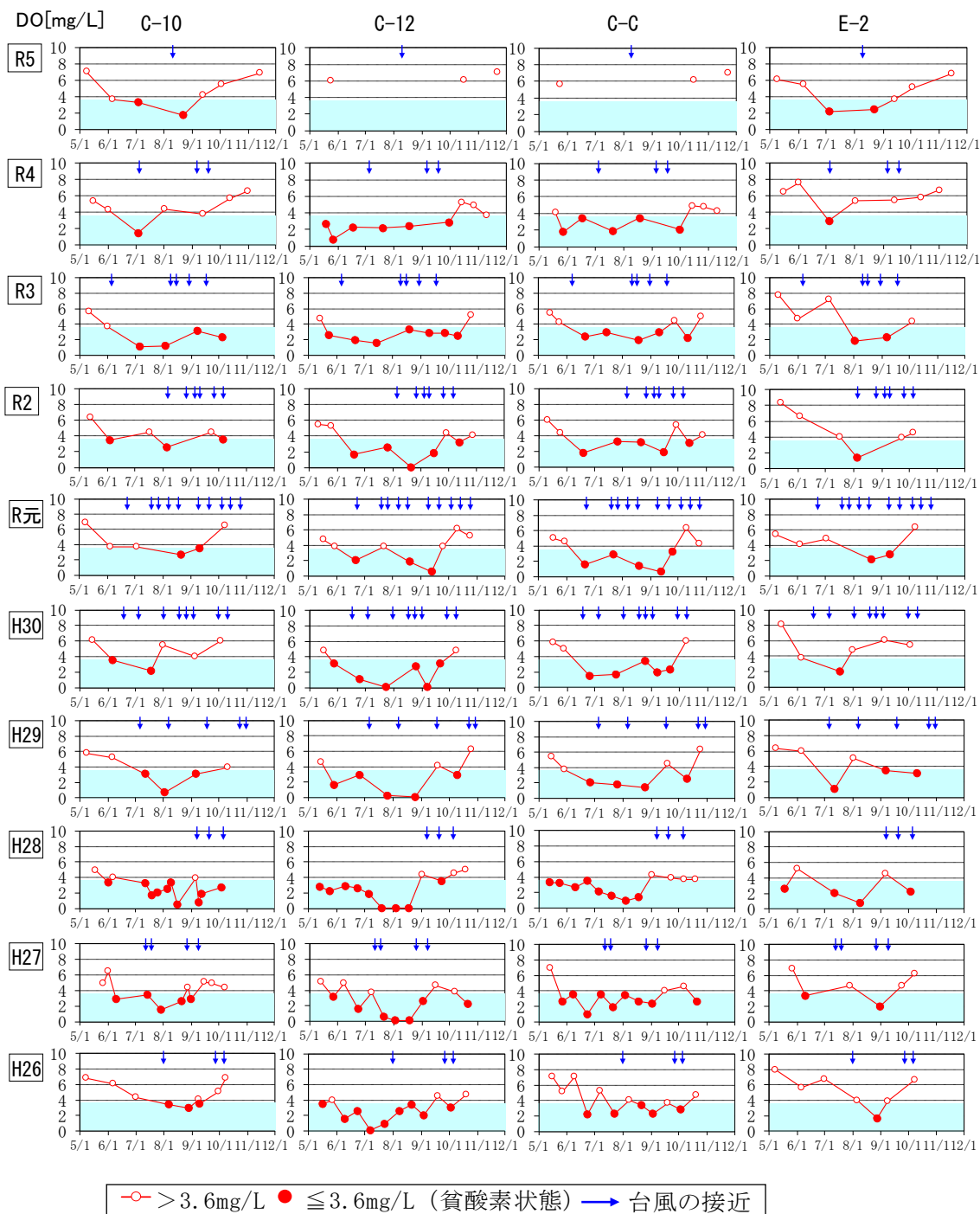
図 77(1) 底泥直上の溶存酸素量の経年変化



○ > 3.6mg/L ● ≤ 3.6mg/L (貧酸素状態) → 台風の接近

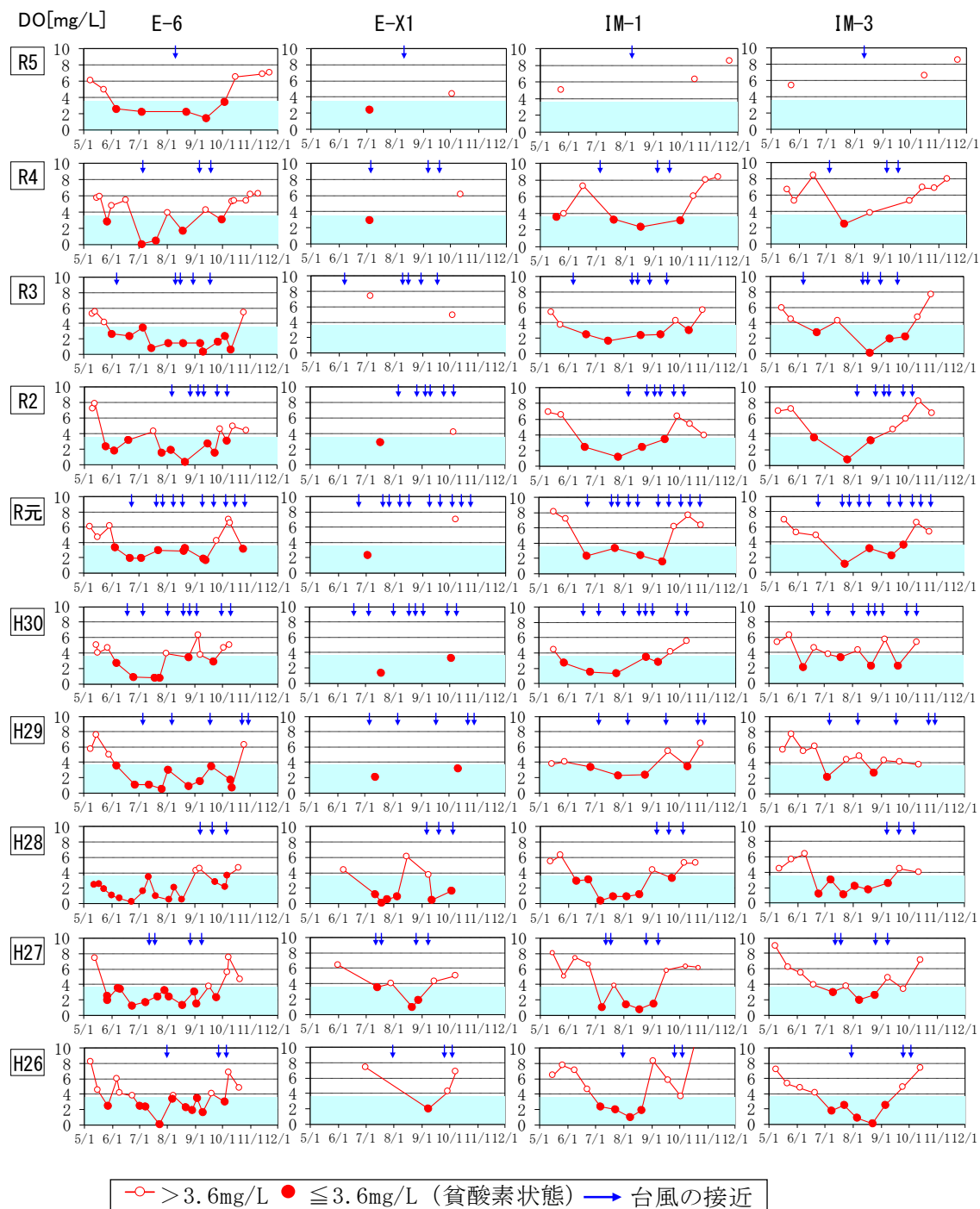
福岡市環境局、福岡市港湾空港局のデータをもとに作成

図 77(2) 底泥直上の溶存酸素量の経年変化



福岡市環境局、福岡市港湾空港局のデータをもとに作成

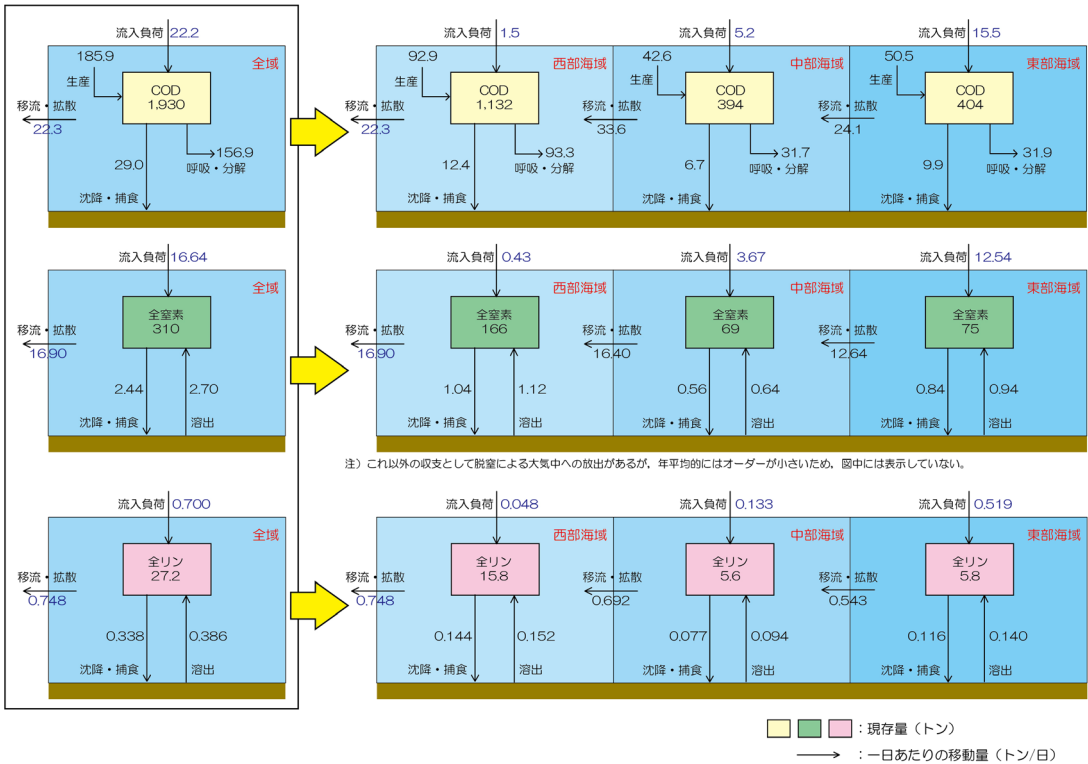
図 77(3) 底泥直上の溶存酸素量の経年変化



福岡市環境局、福岡市港湾空港局のデータをもとに作成

図 77(4) 底泥直上の溶存酸素量の経年変化

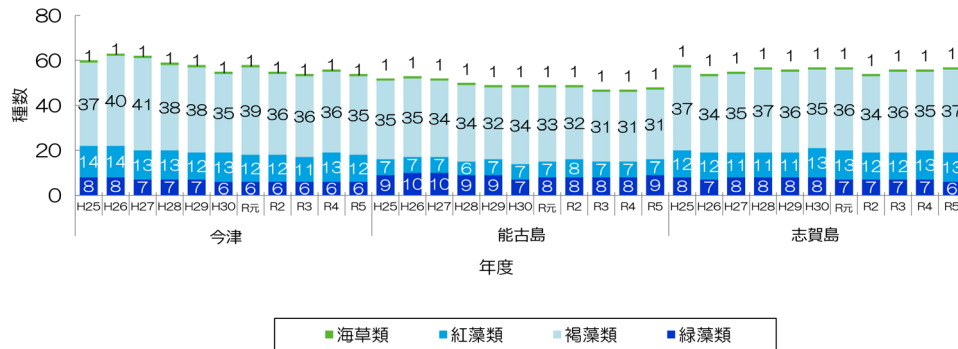
(6) 博多湾の物質収支



令和5年度博多湾環境保全対策検討業務委託報告書(福岡市環境局)をもとに作成
 図 78 博多湾のCOD、全窒素、全リンの収支(令和元年度)

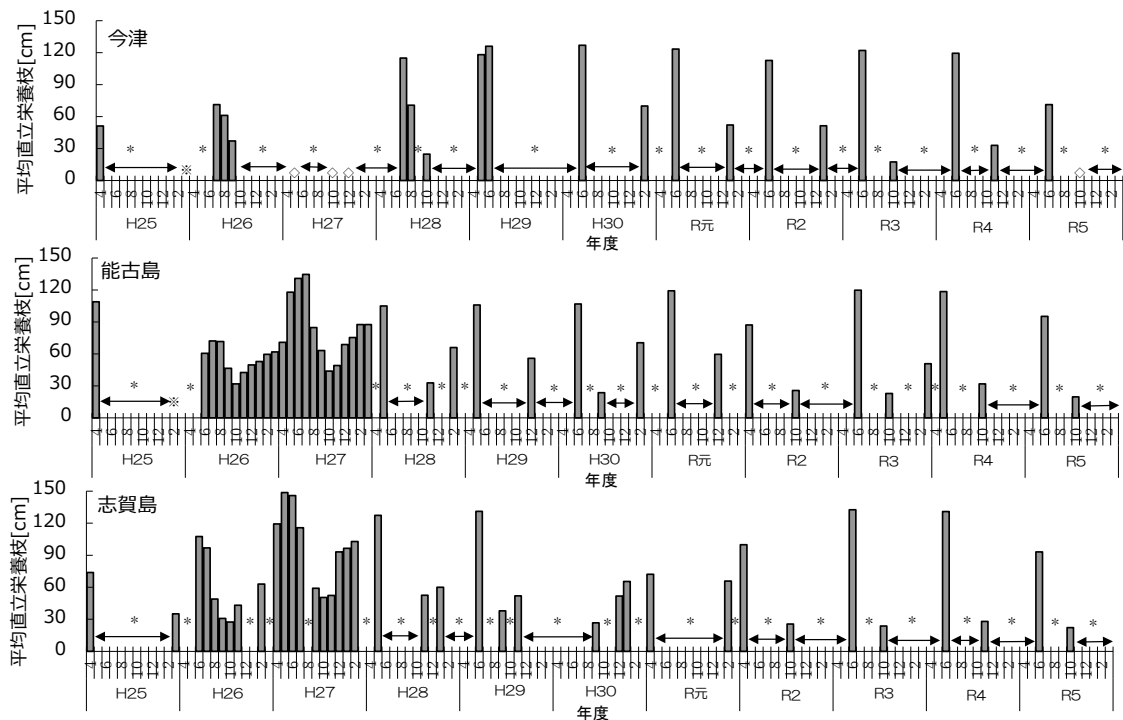
4 博多湾に生息・生育する生物

(1) 海藻・海草類



福岡市環境局のデータをもとに作成

図 79 今津、能古島、志賀島で出現した海藻・海草類の種数の推移



注) “*” は調査なしを、“**” は10cm未満、“◇” はアマモが確認されなかったことを意味します。

福岡市環境局のデータをもとに作成

図 80 今津・能古島・志賀島におけるアマモの直立栄養枝長の推移

表 4 アマモ場のおおよその分布面積

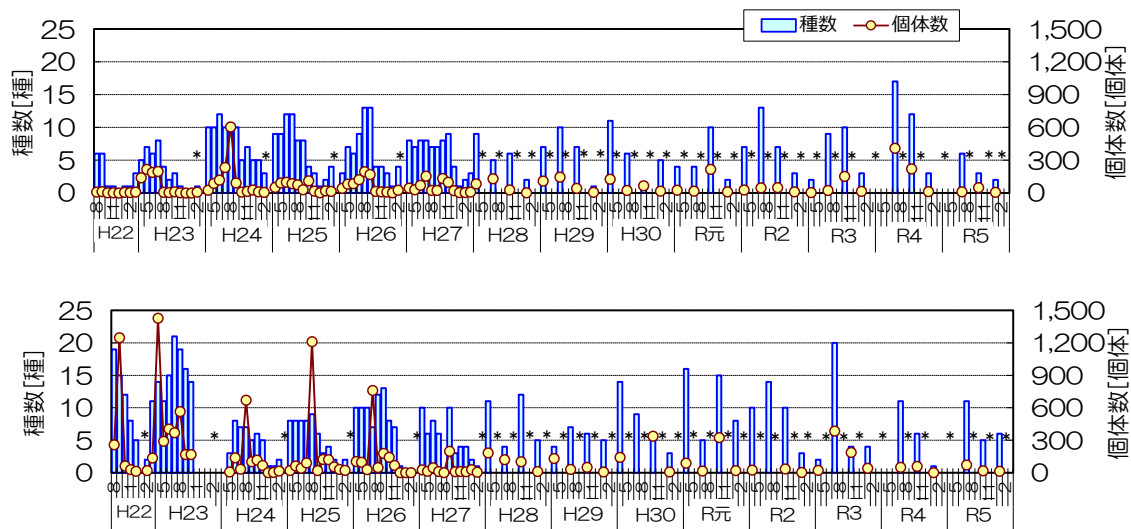
調査地点	分布面積 (m ²)					
	H21	H22	H23	H24	H25	H26
今津	—	—	—	約3,000 (5月)	約3,500 (4月)	約2,000～ 2,450 (6月～7月)
能古島	約30,000 (6月)	約25,000 (2月)	約30,000 (8, 9月)	約28,000 (5月)	約30,000 (5月)	約18,000～ 21,000 (6月～7月)
志賀島	約1,500 (7月)	約2,000 (2月)	約2,500 (10, 11月)	約5,000 (5月)	約5,000 (4月)	約3,500 (6月～7月)

調査地点	H27	H28	H29	H30	R元	R2
今津	確認 されず	500未満	約 500 ～1,000	約2,000 (6月)	約3,000 (6月)	約2,000 (6月)
能古島	約20,000	約20,000	約20,000 ～20,500 (5月)	約20,000 (6月)	約20,000 (6月)	約20,000 (4月)
志賀島	約4,000	約4,000	約3,000 ～4,000 (6月～7月)	約3,000 ～4,000 (5月)	約3,000 ～4,000 (4月)	約3,000 ～4,000 (4月)

調査地点	R3	R4	R5
今津	欠測	—	—
能古島	約20,000 (6月)	約20,000 (6月)	20,000弱 (6月)
志賀島	約3,000 ～4,000 (6月)	約3,000 ～4,000 (6月)	約3,000 (6月)

注) ” — ” は調査なしを意味します。

福岡市環境局のデータをもとに作成



注) ”*” は調査なしを意味します。

福岡市環境局のデータをもとに作成

図 81 アマモ場を利用する魚類の出現状況 能古島（上）、志賀島（下）

種名	能古島			志賀島		
	7	10	1	7	10	1
アユ						●
ヨウジウオ	●			●		
ヤマトカマス				●		
スズキ				●		●
シロギス		●			●	
キチヌ					●	
ムレハタタテダイ				●		
ウミタナゴ				●		
アオタナゴ	●					
ヒメハゼ		●	●	●		●

種名	能古島			志賀島		
	7	10	1	7	10	1
チチブ属	●					
ニジギンポ					●	
オニオコゼ				●		
クジメ				●		
ネズミゴチ		●				
ササウシノシタ						●
アミメハギ	●			●	●	●
カワハギ	●			●	●	
コンゴウフグ				●		
クサフグ	●		●			●

図中の円の凡例

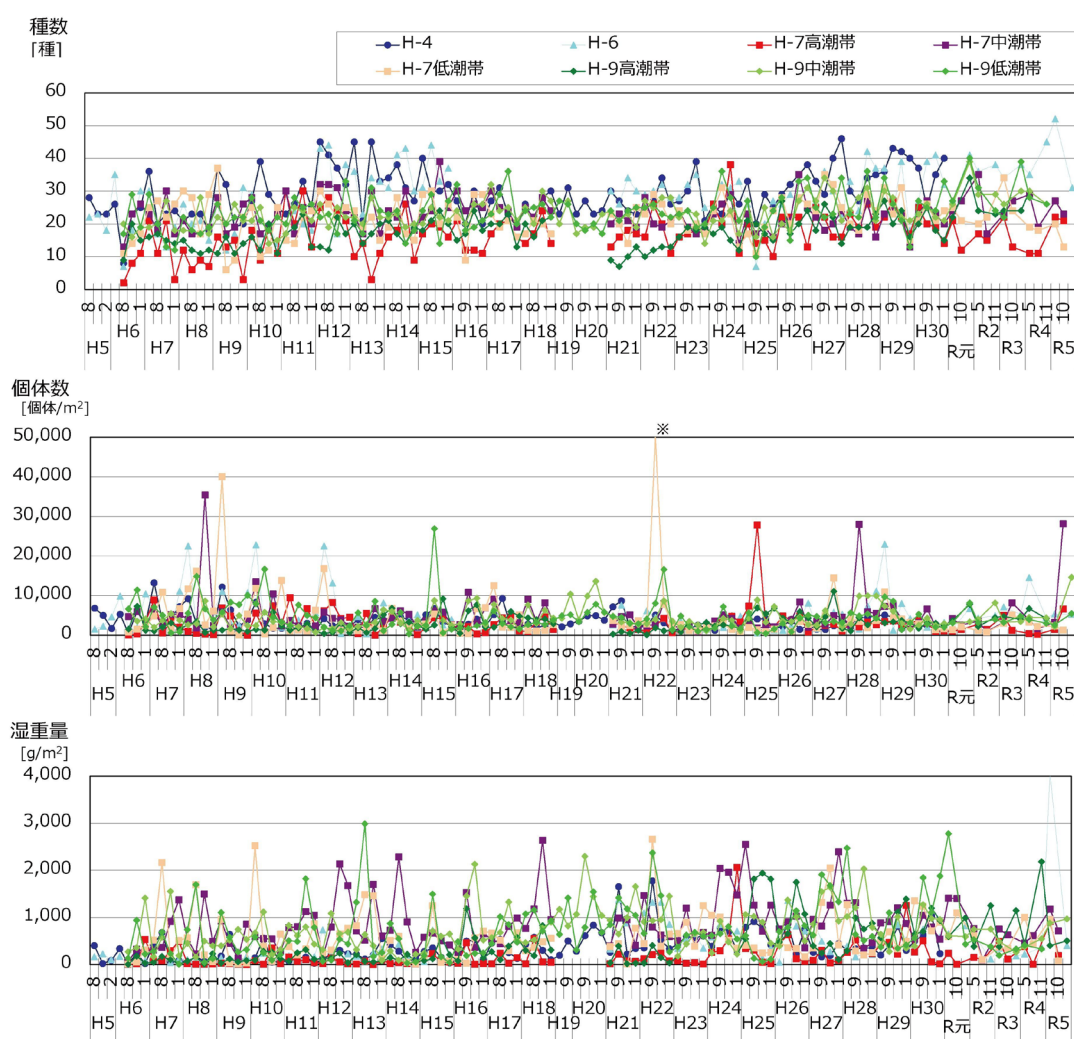
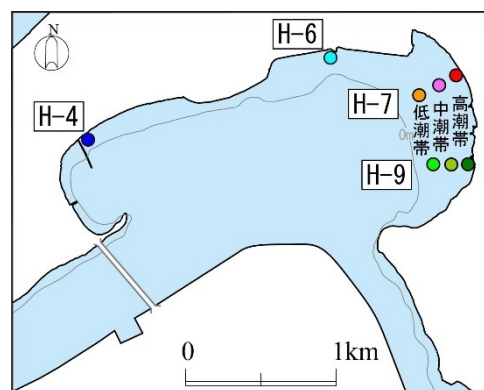
単位：mm

100 10

福岡市環境局のデータをもとに作成

図 82 能古島・志賀島のアマモ場を利用する魚類と体長の大きさの経月変化
(令和 5 年度)

(2) 干潟生物（和白干潟）



※：ホトトギスガイ 約 33,000 個体/m²、ウミナナ約 14,000 個体/m²

福岡市環境局、福岡市港湾空港局のデータをもとに作成

図 83 干潟生物の種数・個体数・湿重量の経年変化

表 5(1) 和白干潟における干潟生物の出現種（令和 5 年度）

種名					調査地点			H-6			H-7			H-9		
1	腔腸動物門	花虫綱	イキナシ目													
2				ムシロ目	イキナシ目											
3	扁形動物門	渦虫綱	多岐腸目													
4	紐形動物門	無針綱	原始紐虫目	ケアラツツ科												
5			異紐虫目													
6				リネウス科												
7		有針綱	針紐虫目													
8	触手動物門	筈虫綱	筈虫目	ホウキ目	Phoronis 属											
9	環形動物門	多毛綱	遊在目	ウロコ目	マダラウロコムシ											
10				サシバ目	ホソミサシバ											
11					Eteone 属											
12					マダラサシバ											
13				ホウキ目												
14				Glyptis 属												
15				ホソミサシバ	ニホンカギゴカイ											
16					ハナオカカギゴカイ											
17				コケ目	コケゴカイ											
18					アシナガゴカイ											
19				ミナミシロガネ目	ミナミシロガネ目											
20				マキントシチロリ	(Glycera subaenea)											
21				イワムシ												
22			定在目	カギノテスビオ												
23				アミメオニスビオ												
24				Pseudopolydora 属												
25				Polydora 属												
26				アカテンスビオ												
27				ケンサキスビオ												
28				ヤマトスビオ												
29				Dipolydora 属												
30				Prionospio pulchra												
31				ミズヒキ目	ミズヒキ目											
32				ツツオオフェリア	(Armandia lanceolata)											
33				Capitella capitata												
34				Capitella 属												
35				Mediomastus 属												
36				Heteromastus 属												
37				Amphitrite 属												
38				チンチロフサ目												
39				Branchiomma 属												
40				Sabella 属												
41				カササ目												
42				ナデシコ目												
43				エゾカササ目												
44				トゲカササ目												
45		貧毛綱														
46			カミミ目	イミミ目												
47	軟体動物門	腹足綱	原始腹足目	ヒメコザラ目	ヒメコザラ目 (ツボミ目)											
48			中腹足目	ミズミズ目	エドガワミズ目											
49				カワグチ目	カワグチ目											
50				サザナミ目	サザナミ目											

福岡市環境局、福岡市港湾空港局のデータをもとに作成

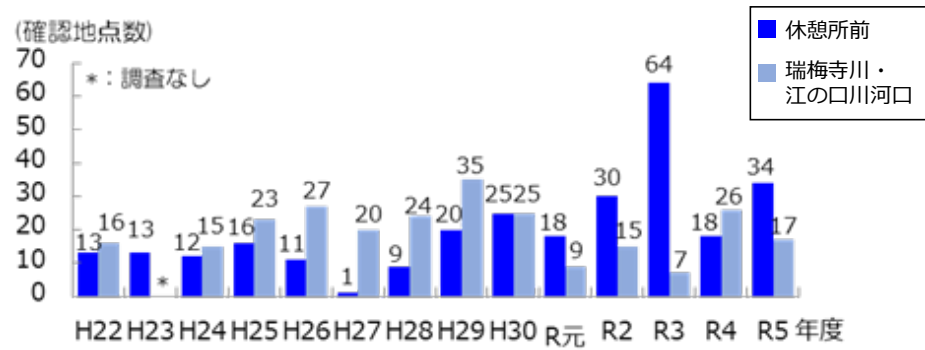
表 5(2) 和白干潟における干潟生物の出現種（令和 5 年度）

種名						調査地点	H-6	H-7			H-9		
								高潮帯	中潮帯	低潮帯	高潮帯	中潮帯	低潮帯
51	軟体動物門	腹足綱	中腹足目	ウミナ科	ウミナ (ホソウミナ)	○	○	○	○	○	○	○	
52					ウミナ属		○	○	○				
53			新腹足目	ウミナ科	アラムシロガイ	○		○	○	○	○	○	
54			異腹足目	ウミナ科	クレハガイ	○							
55			腸紐目	ウミナ科	Odostomia 属	○							
56					カゴメイトカケチキレガイ						○		
57					ヨコイトカケギリガイ	○							
58					Paracingulina 属							○	
59		二枚貝綱	ハナ目	ハナ目	ホトトギスガイ		○	○	○		○	○	
60			ウミナ目	ウミナ目	ナミマガシワガイ	○							
61				ウミナ目	マガキ	○							
62			ウミナ目	ウミナ目	Cycladicama 属	○						○	
63				ウミナ目	シオフキガイ			○			○	○	
64				ウミナ目	ユウシオガイ	○	○	○	○	○	○	○	
65					ヒメシラトリガイ	○							
66				アサリ目	シズクガイ		○						
67				ウミナ目	ヒメカノコアサリ			○				○	
68					アサリ	○		○	○	○	○	○	
69					オキシジミガイ	○	○	○	○	○	○		
70			ウミナ目	ウミナ目	ソトオリガイ		○			○	○		
71	節足動物門	甲殻綱	完胸目	アサリ目	シロスジフジツボ				○				
72					アメリカフジツボ	○		○			○		
73			根頭目	アサリ目				○			○	○	
74			アミ目	アミ目	クロイサザアミ	○							
75			等脚目	アサリ目	ムロミスナウミナナフシ	○	○	○	○	○			
76				アサリ目	ヒガタスナホリムシ					○			
77				アサリ目	ハバヒロコツブムシ		○						
78					イソコツブムシ属 (Gnorimosphaeroma sp.)	○	○	○	○	○	○	○	
79				アサリ目	ヤドカリノハラヤドリ						○		
80	節足動物門	甲殻綱	端脚目	アサリ目	モズミヨコエビ	○				○	○		
81					Ampithoe 属	○	○	○			○	○	
82				Aoridae 科	ニホンドロソコエビ	○	○	○	○	○	○	○	
83				ドロソコエビ科	アリアケドロクダムシ	○		○	○	○	○	○	
84					ウエノドロクダムシ	○							
85				ドロソコエビ科	カマカヨコエビ属 (Kamaka sp.)		○			○			
86				ドロソコエビ科	ヒゲツノメリタヨコエビ	○							
87					シミズメリタヨコエビ	○	○	○	○	○	○	○	
88				ドロソコエビ科	Hyalae 属		○						
89			十脚目	アサリ目	テナガツノヤドカリ			○	○				
90					ツノヤドカリ属 (Diogenes sp.)			○	○			○	
91				アサリ目	ユビナガホンヤドカリ	○	○	○	○	○	○	○	
92				アサリ目	タイワンガザミ						○	○	
93				アサリ目	タカノケフサイソガニ			○	○				
94					ケフサイソガニ	○				○	○	○	
95				アサリ目	コメツキガニ		○			○			
96					カニ類幼生 (メガロバ)		○				○		
97	原索動物門	セウ綱	マダモ目	イソコエビ科	カタユウレイボヤ	○					○		
98			マダモ目	イソコエビ科						○	○		
99				イソコエビ科	Molgula 属	○							
計	種数					64	26	33	27	33	52	43	

福岡市環境局、福岡市港湾空港局のデータをもとに作成

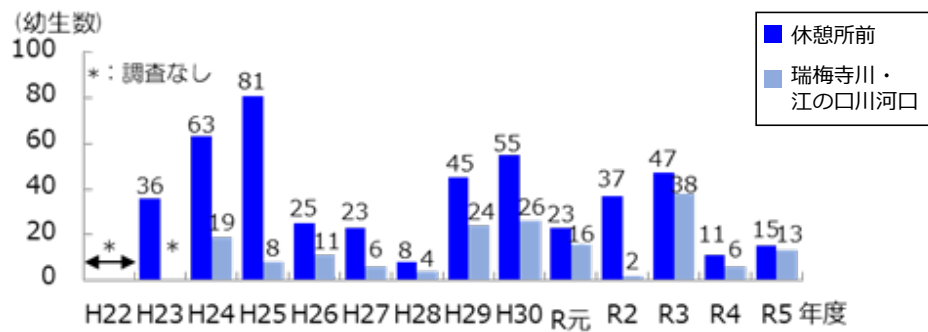
(3) カブトガニ

① 卵塊・幼生（今津干潟）



福岡市環境局のデータをもとに作成

図 84 カブトガニの卵塊数の経年変化



福岡市環境局のデータをもとに作成

図 85 カブトガニの幼生※の確認地点数の経年変化

※ カブトガニの幼生は卵がふ化した後、干潟に生息しています。幼生は脱皮を繰り返しながら約 5 年かけて成長し、干潟から沖合へ移動して、亜成体となります。亜成体が脱皮を繰り返しながらさらに約 10 年かけて成長し、脱皮しなくなると成体になります。